

# JADM NEWS LETTER

Japanese Association for Disaster Medicine

一般社団法人 日本災害医学会

## CONTENTS

表紙：学術集会ポスター.....	1	最優秀論文賞・優秀論文賞・優秀査読者賞紹介 .....	12
第28回日本災害医学会総会・学術集会に向けて .....	2	日本災害医学会創設期（記） .....	12
会長講演・特別講演・特別企画 .....	3	学生部会活動報告 .....	13
日程表 .....	4	編集委員会関連：抄録など .....	14
単位取得可能なセッション一覧 .....	10	編集後記 .....	16
企画運営委員・プログラム委員紹介 .....	11		

第28回 The 28th Annual Meeting of  
Japanese Association for Disaster Medicine



## 日本災害医学会総会・学術集会

災害保健医療の  
過去・現在、  
そして未来

“人材育成”

～東日本大震災被災地からの発信～

会長 **真瀬 智彦** 岩手医科大学医学部  
救急・災害医学講座 教授

副会長 **石井 正** 東北大学大学院医学系研究科 総合医療学分野  
東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授

**島田 二郎** 福島県立医科大学附属病院  
ふたば救急総合医療支援センター 教授

事務局長 **藤原 弘之** 岩手医科大学医学部  
救急・災害医学講座 助教

2023 3/9(木) 11(土) 会場：マリオス  
アイーナ・いわて県民情報交流センター

岩手銀行(旧盛岡銀行) 岩手止 冷麺 じゃじゃ麺

学術集会事務局 岩手医科大学医学部 救急・災害医学講座 〒028-3694 岩手県東磐前郡矢巾町医大通1-1-1

運営準備室 日本コンベンションサービス株式会社内 〒1100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命館が関ビル14階 E-mail: 28jadm@convention.co.jp

<https://site2.convention.co.jp/28jadm/>

## 第28回日本災害医学会総会・学術集会に向けて



第28回日本災害医学会総会・  
学術集会 会長  
**眞瀬 智彦**

岩手医科大学医学部  
救急・災害医学講座 教授

このたび第28回日本災害医学会総会・学術集会を岩手県盛岡市にて開催させていただくことになりました。何卒よろしくお願ひいたします。

会場は盛岡駅直近のマリオスおよびアイーナ/いわて県民情報交流センターとなります。

会期は2023年3月9日(木)～11日(土)です。東日本大震災にちなんで3.11を会期に含めました。

本学術集会のテーマは、

### 「災害保健医療の過去・現在、そして未来“人材育成” ～東日本大震災被災地からの発信～」

といたしました。

過去の災害を振り返り、現在を確認し、未来はどうあるべきかを広い分野で議論していきたいと思ひます。

本学術集会が東日本大震災被災地で開催されるのは初めてであり、シンポジウム、パネルディスカッション等の各セッションにおいては、東日本大震災被災地ならではの視点を多く取り入れます。被災地で活発な学術議論が行われ、今後に向けた発信ができればと思ひます。

また、人材育成にも焦点をあてます。職種毎にセッションを実施し、これまでの人材育成の取り組みをあらためて確認し、未来に繋がる人材育成のあり方について検討できれば良いと考えております。

そして、新型コロナウイルス感染症についても、今般の最新状況を踏まえこれまでとこれからについて深く議論いたします。

海外特別講演を含む特別講演6講演、特別企画11企画、シンポジウムやパネルディスカッション等の主題関連が50セッション、一般演題口演52セッション、ポスター発表16セッション、その他にも委員会企画や各種セミナーを多数用意しております。

最後に開催形式についてです。新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ様々検討した結果、感染対策を徹底した上で、原則現地対面形式での開催といたします。また、オンラインライブ配信やオンデマンド配信は行いません。震災から12年の被災地にぜひお越しください。岩手で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

## 学術集会概要

会 期 2023年(令和5年)3月9日(木)～11日(土)

会 場 マリオス/アイーナ(岩手県盛岡市) JR盛岡駅西口徒歩3～4分

メインテーマ 「災害保健医療の過去・現在、そして未来“人材育成”～東日本大震災被災地からの発信～」

会 長 眞瀬 智彦

(岩手医科大学医学部 救急・災害医学講座 教授)

副 会 長 石井 正

(東北大学大学院医学系研究科 総合医療学分野/  
東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授)

島田 二郎

(福島県立医科大学附属病院

ふたば救急総合医療支援センター教授)

事務局長 藤原 弘之

(岩手医科大学医学部  
救急・災害医学講座 助教)

学術集会HP QRコード

<https://site2.convention.co.jp/28jadm/>

抄録集は学術集会HPよりご覧ください。



## 会長講演・特別講演・特別企画

\*2月中旬時点の情報です。最新情報は学術集会HPをご確認ください。

### 第1日目 3月9日木曜日

#### マリオス

#### 第1会場 (大ホール)

- 13:00～13:30 **会長講演**  
 人材育成～東日本大震災被災地からの発信～  
 眞瀬智彦 (岩手医科大学医学部 救急・災害医学講座 教授)
- 13:40～14:40 **特別企画①**  
 東日本大震災から12年、被災地からの発信～被災3県合同討論～
- 14:50～16:00 **特別企画②**  
 VS南海トラフ地震 つなぐ議論のバトン!  
 ～1stメッセージ:  
 南海トラフ地震に活かす過去の教訓～

#### 第2会場 (小ホール)

- 17:00～18:00 **特別講演①**  
 パイロット養成課程から考える人材育成  
 山崎英一

#### アイーナ

#### 第3会場 (8階 804)

- 13:40～14:40 **特別講演②**  
 Design Process for Training Emergency Medical Teams (EMTs) in High and Low Resource Settings  
 Rich Parker (Training In Aid)
- 14:50～15:50 **特別講演③**  
 21st Century Emergency Response—Lessons Learned, Challenges, and Innovations  
 Denis FitzGerald (Health Human Services)

### 第2日目 3月10日金曜日

#### マリオス

#### 第1会場 (大ホール)

- 8:20～9:40 **特別企画③** 関東大震災
- 14:10～16:10 **特別企画④** 防災学術連携体特別セッション  
 「災害から国土と命を守る専門家をどう育てるか」

#### アイーナ

#### 第3会場 (8階 804)

- 14:10～15:10 **特別講演④** TBA  
 Terence (Terry) Michael Trewin (National Critical and Trauma Response Centre, AUSMAT-Australian Medical Assistance Team)
- 15:10～16:40 **特別企画⑤**  
 ウクライナ紛争—武力紛争事案への日本からの支援
- 16:40～18:10 **特別企画⑥**  
 ウクライナ医療関係者 (医師、医学生) の現状

#### 第5会場 (8階 812)

- 10:00～11:00 **特別企画⑦**  
 CBRNE対応の過去・現在、そして未来

### 第3日目 3月11日土曜日

#### マリオス

#### 第1会場 (大ホール)

- 8:50～10:10 **特別企画⑧**  
 新世代が考える災害対応! 未来への発信 (高校生)
- 10:20～11:40 **特別企画⑨**  
 新世代が考える災害対応! 未来への発信 (大学生)
- 13:00～14:30 **特別講演⑤**  
 新型コロナ これまでとこれから  
 尾身茂 (公益財団法人結核予防会 理事長)

#### 第2会場 (小ホール)

- 10:00～10:50 **特別講演⑥**  
 「日清戦争帰還兵検疫事業&帝都復興事業 (関東大震災)」の陣頭指揮を執った後藤新平  
 佐藤彰博 (後藤新平記念館 館長)

#### アイーナ

#### 第3会場 (8階 804)

- 12:50～14:20 **特別企画⑩**  
 有事の際の邦人避難について

#### 第5会場 (8階 812)

- 8:20～9:50 **特別企画⑪**  
 富士山噴火災害について考える

社会医学系分野に関する講習  
 指：指導医講習会  
 必：必須受講項目（共通講習）  
 選：選択受講項目（K 単位講座）

第1日目 3月9日（木）

マリオス		アイーナ		
第1会場 大ホール	第2会場 小ホール	第3会場 8階 804	第4会場 8階 803	第5会場 8階 812
8:30			9:00-11:30 評議員会 会場：岩手県公会堂	
9:00				
10:00				
11:00				
12:00	11:55-12:45 ランチョンセミナー1 演者：植木 穰 座長：森野 一真 共催：日本セイフティー株式会社			
13:00	12:50-13:00 開会式 13:00-13:30 会長講演 座長：高階謙一郎			
14:00	13:40-15:10 シンポジウム2 【人材育成】人材育成の過去・現在、 そして未来～指揮官育成～ 座長：近藤 久禎 越野 修三	13:40-14:40 特別講演2 Design Process for Training Emergency Medical Teams (EMTs) in High and Low Resource Settings 座長：久保 達彦	13:40-15:10 パネルディスカッション3 【人材育成】特設可能な災害保健医療福祉支援： 実践と人材育成のクリニカル・ホール 座長：原田奈穂子 千島佳也子	13:40-15:10 小児周産期委員会企画 【人材育成】災害医療における小 児周産期医療従事者の人材育成 座長：海野 信也 高村 ゆ希
15:00	14:50-16:00 特別企画2 VS 南海トラフ地震 つなぐ議論の バトン！～1stメッセージ：南海 トラフ地震に活かす過去の教訓～ 座長：小井土雄一	14:50-15:50 特別講演3 座長：豊國 義樹 横堀 将司		
16:00	15:20-16:50 パネルディスカッション1 【人材育成】災害保健医療の未来 ～事務職～ 座長：楠 孝司 高桑 大介	16:00-17:20 パネルディスカッション2 【東日本大震災】被災地からの発信 ～宮城県～大震災と近年の自然災害 を災害科学からの視点から考える 座長：石井 正 佐々木宏之	15:20-16:50 パネルディスカッション4 【人材育成】災害保健医療の未来 ～災害支援者の食と栄養～ 座長：笠岡（坪山）宣代 濱田 真里	15:20-16:50 パネルディスカッション6 【人材育成】災害時の歯科保健医 療体制における連携と人材教育 座長：佐藤 保 笠岡 俊志
17:00	16:10-18:20 シンポジウム1 新型コロナウイルス感染症の過 去・現在、そして未来 座長：阿南 英明 近藤 久禎	17:00-18:00 特別講演1 パイロット養成課程から考える 人材育成 座長：眞瀬 智彦	17:00-18:30 パネルディスカッション5 【人材育成】災害保健医療の未来 ～看護師～ 座長：石井美恵子 中森 知毅	17:00-18:30 パネルディスカッション7 【人材育成】災害保健医療の未来 ～薬剤師～ 座長：西澤 健司 富永 綾
18:00		17:30-18:30 救急科領域講習1 座長：長島 広相		
19:00				
20:00				

抄録集は学術集会HPよりご覧ください。



マリオス				アイーナ
第6会場 18階188	第7会場 18階181	第8会場 18階185 + 186	第9会場 18階183 + 184	ポスター会場 4階 県民プラザ
8:30				
9:00				
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00	13:40-14:28 <b>主題関連 1</b> 人材育成 新型コロナウイルス 座長：中森 知毅 成松 英智	13:40-14:22 <b>口演 1</b> 研修・訓練・評価 座長：石井 史子、稲田 眞治	13:40-14:29 <b>口演 7</b> 研修・訓練・評価 座長：小笠原 賢 森田 浩史	13:40-14:15 <b>口演 12</b> 搬送・船舶・離島 座長：豊田 信之、木村 友一
15:00	14:40-15:36 <b>主題関連 2</b> 人材育成 1 座長：中森 知毅 川谷 陽子	14:30-15:19 <b>口演 2</b> 風水害・土砂災害 座長：松園 幸雅 山内 聡	14:30-15:12 <b>口演 8</b> 研修・訓練・評価 座長：吉野 篤人、川瀬 鉄典	14:20-14:55 <b>口演 13</b> 水害・病院移転 座長：田治 明宏、中島 成隆
16:00	15:40-16:28 <b>主題関連 3</b> 人材育成 2 座長：本間 正人 河嶋 讓	15:20-15:55 <b>口演 3</b> マニュアル・BCP 座長：堀内 義仁、伊関 憲	15:20-16:02 <b>口演 9</b> 研修・訓練・評価 座長：岡本 貴大、奥山 学	15:00-15:35 <b>口演 14</b> 局地災害 座長：張替喜世一、武山 佳洋
17:00	16:30-17:18 <b>主題関連 4</b> 人材育成 3 座長：中山 伸一 千島佳也子	16:00-16:35 <b>口演 4</b> 小児・周産期 座長：染谷 泰子、林 宗博	16:10-16:59 <b>口演 10</b> 研修・訓練・評価 座長：沢本 圭悟 中村 光伸	15:40-16:15 <b>口演 15</b> 健康管理（薬・栄養） 座長：西澤 健司、切田 学
18:00	17:40-18:30 <b>イブニングセミナー 1</b> 共催：株式会社ジョリーグッド	16:40-17:15 <b>口演 5</b> 病院 座長：佐藤 大、中島 康	17:00-17:49 <b>口演 11</b> 研修・訓練・評価 座長：本村 友一 名知 祥	16:20-17:02 <b>口演 16</b> 医療活動 座長：山田 裕彦、黒田 泰弘
19:00	演者：横堀 将可 笠岡 俊志 上路 健介 座長：大友 康裕	17:20-18:02 <b>口演 6</b> 精神保健医療 座長：村上 典子、河嶋 讓		17:10-17:52 <b>口演 17</b> 多機関・多職種連携 座長：布施 明、清住 哲郎
20:00				

社会医学系分野に関する講習  
 指：指導医講習会  
 必：必須受講項目（共通講習）  
 選：選択受講項目（K 単位講座）

第2日目 3月10日（金）

マリオス		アイーナ		
第1会場 大ホール	第2会場 小ホール	第3会場 8階 804	第4会場 8階 803	第5会場 8階 812
8:30				
9:00	8:20-9:40 <b>特別企画3</b> 関東大震災 座長：大友 康裕 近藤 久禎	8:20-9:50 <b>パネルディスカッション11</b> 国際支援 座長：大場 次郎 小井土雄一 糟谷 良久	8:20-9:50 <b>パネルディスカッション13</b> 【人材育成】災害保健医療の未来 ～臨床検査技師～ 座長：澤畑 良一 太田麻衣子	<b>選</b> 8:20-9:20 <b>MCLS委員会企画</b> MCLS-CBRNE コースの改訂について、 MCLSの新たなコースの紹介 座長：阿南 英明 高橋 栄治
10:00	<b>必</b> 9:30-10:30 <b>共通講習（医療倫理）</b> 医療倫理～基本的な考えから災害 支援の倫理的課題まで～ 座長：高橋 昌			
11:00	10:40-12:10 <b>シンポジウム3</b> 【人材育成】人材育成の過去・現在、 そして未来～ロジスティクス～ 座長：奥山 学 中田 正明	10:00-11:30 <b>パネルディスカッション12</b> 【人材育成】国際人材育成：JDR × ARCH 合同セッション 座長：久保 達彦 大場 次郎	10:00-11:30 <b>パネルディスカッション14</b> 【人材育成】災害保健医療におけ る臨床工学技士の活動と人材育成 座長：三木 隆弘 陶山 真一	<b>選</b> 10:00-11:00 <b>特別企画7</b> CBRNE 座長：島田 二郎
12:00				
13:00		12:20-13:10 <b>ランチョンセミナー2</b> 演者：西澤 匡史 座長：大間々真一 共催：第一三共株式会社	12:20-13:10 <b>ランチョンセミナー3</b> 演者：伊藤 朋子 片木 宗弘 共催：SCIEX	
14:00	13:20-14:00 <b>総会</b>			
15:00	<b>選</b> 14:10-16:10 <b>特別企画4</b> 防災学術連携体「災害から国土と 命を守る専門家をどう育てるか」 座長：米田 雅子 大友 康裕	14:10-15:10 <b>特別講演4</b> 座長：久保 達彦	<b>選</b> 14:10-15:40 <b>パネルディスカッション15</b> 放射線災害対応の過去・現在、そ して未来 - 誰が命を救うのか 座長：長谷川有史 廣橋 伸之	14:10-15:30 <b>パネルディスカッション17</b> 【人材育成】災害保健医療の未来 ～福祉～ 座長：原田奈穂子 中野めぐみ
16:00		15:10-16:40 <b>特別企画5</b> ウクライナ紛争-武力紛争事案へ の日本からの支援 座長：富田 博樹 小井土雄一	<b>選</b> 15:45-17:25 <b>シンポジウム6</b> トリアージ 座長：森野 一真 青野 允	15:50-16:50 <b>パネルディスカッション18</b> 【人材育成】災害リハビリテーショ ンの過去・現在、そして未来 座長：富岡 正雄 中村 春基
17:00	<b>選</b> 16:20-17:40 <b>パネルディスカッション8</b> 【東日本大震災】被災地からの発信 ～福島県～ 座長：島田 二郎 長谷川有史	16:40-18:10 <b>特別企画6</b> ウクライナ医療関係者 (医師、医学生)の現状 座長：久保 達彦 大場 次郎 發知 佑太		
18:00	<b>必</b> 18:00-19:00 <b>共通講習（医療安全）</b> 災害医学と医療安全 座長：若井 聡智	17:30-19:00 <b>シンポジウム5</b> 【人材育成】災害保健医療人材育 成の未来を考える 座長：高橋 昌 石井 正	<b>選</b> 17:30-19:00 <b>パネルディスカッション16</b> 各組織の災害支援体制について 座長：小谷 聡司 小平 博	17:30-19:10 <b>パネルディスカッション19</b> 災害時の医薬品供給体制について ～薬事コーディネーターの役割と 必須医薬品～ 座長：渡邊 暁洋 萬年 琢也
19:00		18:20-19:20 <b>救急科領域講習2</b> 座長：中山 伸一		
20:00				

抄録集は学術集会HPよりご覧ください。



マリオス				アイーナ
第 6 会場 18 階 188	第 7 会場 18 階 181	第 8 会場 18 階 185 + 186	第 9 会場 18 階 183 + 184	ポスター会場 4 階 県民プラザ
8:30	8:20-9:02 <b>口演 18</b> 新型コロナウイルス 座長：上村 修二、高山 隼人	8:20-9:02 <b>口演 25</b> 機器・システム開発 座長：末永利一郎、大野 龍男	8:20-9:09 <b>口演 32</b> 情報・テクノロジー 座長：安藤和佳子 久保 芳宏	8:00-16:40 ポスター貼付・閲覧
9:00	9:10-9:50 <b>主題関連 6</b> 感染症対策 座長：北川 喜己、奥村 順子	9:20-9:55 <b>口演 19</b> 新型コロナウイルス 座長：皆川 幸洋、杉田 学	9:10-9:52 <b>口演 33</b> 情報・テクノロジー 座長：浦嶋伴之助、近藤 祐史	
10:00	9:50-10:46 <b>主題関連 7</b> 実災害対応から学ぶ 座長：吉野 篤人 山内 聡	10:00-10:49 <b>口演 20</b> 新型コロナウイルス 座長：中森 知毅 川谷 陽子	10:00-10:49 <b>口演 34</b> 院内体制 座長：小笠原 賢 碓 光司	
11:00	10:50-11:46 <b>主題関連 8</b> 災害保健医療の未来・Society 5.0 座長：久野 将宗 末永利一郎	10:50-11:32 <b>口演 21</b> 新型コロナウイルス 座長：増田由美子、山内 聡	10:50-11:32 <b>口演 35</b> マスクゼラリング 座長：本田 茂人、三浦 邦久	
12:00				
13:00	12:20-13:10 <b>共催特別講演</b> 演者：高山 真 座長：石井 正 共催：株式会社ツムラ			
14:00				
15:00	14:10-14:58 <b>主題関連 9</b> 新型コロナウイルス 座長：加納 秀記 落合 秀信	14:10-14:59 <b>口演 22</b> ロジスティクス 座長：楠 孝司 石原 哲	14:10-14:59 <b>口演 29</b> 新型コロナウイルス 座長：鍛冶 有登 吉岡 留美	
16:00	15:00-15:48 <b>主題関連 10</b> 新型コロナウイルス 座長：石井 圭亮 中村 光伸	15:00-15:49 <b>口演 23</b> 航空搬送 座長：生越 智文 本村 友一	15:00-15:49 <b>口演 30</b> 新型コロナウイルス 座長：近藤 豊 山下 直美	
17:00	15:50-16:30 <b>主題関連 11</b> 新型コロナウイルス 座長：北川 喜己、佐々木秀章	15:50-16:39 <b>口演 24</b> 指揮・調整・連携 座長：加納 秀記 横堀 将司	15:50-16:25 <b>口演 31</b> 火山噴火・検死 座長：吉原 秀明、七戸 康夫	
18:00	16:30-17:18 <b>主題関連 12</b> 放射線災害 座長：浅利 靖 山下 和範		15:50-16:39 <b>口演 37</b> 公衆衛生 座長：久野 将宗、石川 秀樹	
19:00	18:00-18:50 <b>イブニングセミナー 2</b> 座長兼演者：中田 敬司 共催：エア・ウォーター防災株式会社	18:00-18:50 <b>イブニングセミナー 3</b> 演者：市川 学 座長：大野 龍男、三村 誠二 共催：SP「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」	16:40-17:40 ポスター発表	
20:00			17:40-18:30 ポスター撤去	

社会医学系分野に関する講習  
 指：指導医講習会  
 必：必須受講項目（共通講習）  
 選：選択受講項目（K 単位講座）

第3日目 3月11日（土）

		マリオス		アイーナ		
		第1会場 大ホール	第2会場 小ホール	第3会場 8階 804	第4会場 8階 803	第5会場 8階 812
8:30			<b>選</b> 8:20-9:50 シンポジウム7 災害時における医療コンテナの活用について 座長：中田 敬司 山下 和範	<b>必</b> 8:20-9:50 パネルディスカッション20 【人材育成】新型コロナウイルス感染症がもたらした人材育成への影響 座長：若井 聡智 佐藤 浩章	<b>選</b> 8:20-9:50 学会主導研究委員会企画 災害医学研究をしよう！ 座長：大友 康裕 越智 小枝	<b>選</b> 8:20-9:50 特別企画11 富士山噴火災害について考える 座長：小井土雄一
9:00	8:50-10:10 特別企画8 新世代が考える災害対応！ 未来への発信（高校生） 座長：小早川義貴					
10:00			10:00-10:50 特別講演6 医師であり官僚・政治家でもあった後藤新平から学ぶ ～精選兵隊や関東大震災復興の偉業～ 座長：山本 保博	10:00-11:30 パネルディスカッション21 【人材育成】災害保健医療の未来 ～救急救命士～ 座長：鈴木 健介 加藤 渚	10:00-11:30 パネルディスカッション22 【人材育成】災害保健医療の未来 ～診療放射線技師～ 座長：中島 成隆 中田 正明	<b>選</b> 10:00-11:30 パネルディスカッション24 災害時の保健医療福祉調整本部に 関する過去、現在と未来 -健康危機管理センター設立に向けて 座長：小井土雄一 久保 達彦
11:00	10:20-11:40 特別企画9 新世代が考える災害医療！ 未来への発信（大学生） 座長：柏木 杏奈 高橋 侑奨					
12:00			11:50-12:40 ランチョンセミナー4 演者：小倉 真治 座長：眞瀬 智彦 共催：アストラゼネカ株式会社	11:50-12:40 ランチョンセミナー6 演者：成田 徳雄 座長：石井 正 共催：日本光電工業株式会社/丸大医科器械株式会社		
13:00	<b>必</b> 13:00-14:30 特別講演5 新型コロナ これまでとこれから 座長：阿南 英明			12:50-14:20 特別企画10 有事の際の邦人避難について 座長：仲本 光一	12:50-14:20 パネルディスカッション23 【人材育成】災害保健医療の未来 ～保健師～ 座長：尾島 俊之 奥田 博子	<b>選</b> 12:50-14:20 パネルディスカッション25 冬期の自然災害と低体温症 ～日本海溝・千島海溝沿いの巨大 地震・津波災害への備え～ 座長：植田 信策
14:00						
15:00	14:40-15:00 閉会式					
16:00	15:10-16:10 全国災害拠点 病院連絡会議		14:30-18:30 JMTDR 40周年記念シンポジウム			15:20-16:20 DMAS 企画 教えて先生！学生×専門家【座談会】 座長：小早川義貴 荻田 義明
17:00						
18:00						
19:00						
20:00						



抄録集は学術集会HPよりご覧ください。



マリオス				アイーナ	
第 6 会場 18 階 188	第 7 会場 18 階 181	第 8 会場 18 階 185 + 186	第 9 会場 18 階 183 + 184	ポスター会場 4 階 県民プラザ	
8:30	8:20-8:55 口演 39 研修・訓練・評価 座長：中尾 博之、梶野健太郎	8:20-9:02 口演 43 鍼灸マッサージ 座長：富岡 正雄、山本 啓雅	8:20-9:09 口演 48 学生セッション 研修訓練・体制整備 座長：久野 将宗 柏木 杏奈	8:00-13:30 ポスター貼付・閲覧	
9:00	9:00-9:49 口演 40 研修・訓練・評価 座長：関 啓輔 畑 倫明	9:10-9:45 口演 44 危機管理・資源確保・コンテナ 座長：高寺由美子、井上 彰	9:10-9:52 口演 49 国際支援 座長：稲葉 基高、黒住 健人		
10:00	9:20-10:16 主題関連 14 トリアージ 座長：中尾 博之 千島佳也子	9:50-10:25 口演 41 研修・訓練・評価 座長：渡邊 暁洋、奥山 学	9:50-10:25 口演 45 マニュアル・BCP 座長：石川 敏仁、佐藤 友子		
11:00	10:20-11:16 主題関連 15 避難所 座長：笠岡 俊志 恩部 陽弥	10:30-11:10 主題関連 18 CBRNE 座長：森村 尚登、上村 修二	10:30-11:19 口演 46 マニュアル・BCP 座長：堀内 義仁 東岡 宏明		
12:00	11:50-12:40 ランチョンセミナー 5 座長：高橋 昌 共催：公益財団法人味の素ファンデーション	演者：笠岡(坪山) 宣代 大友 康裕 中山 伸一	10:00-10:42 口演 50 国際支援 座長：増田由美子、夏川 知輝		
13:00	13:00-13:48 主題関連 16 国際支援 座長：井上 潤一 大場 次郎	13:00-13:49 口演 42 学生セッション 研修訓練・体制整備 座長：野口 昌彦 藤田 基生	13:00-13:42 口演 52 原子力災害 (DMAT) 座長：上杉 泰隆 長谷川有史		
14:00	13:50-14:30 主題関連 17 未来へ、持続可能な災害保健医療 Sustainable Development Disaster response Goals「SDDGs」		10:50-11:25 口演 51 テロ対策 座長：高橋 栄治、林 靖之		
15:00	座長：高橋 礼子 富岡 譲二				13:30-14:30 ポスター発表
16:00					14:30-15:30 ポスター撤去
17:00					
18:00					
19:00					
20:00					

# 第28回日本災害医学会総会・学術集会における『社会医学系分野に関連する講習』について

社会医学系専門医・指導医の更新に必要な要件のうち、『社会医学系分野に関する講習』につきましては、本学術集会の以下のセッションが認定されております。

奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。

## 【社会医学系専門医（指導医）講習会】

日時：3月10日（金）8:20～9:20

会場：第2会場（マリオス 小ホール）

## 【共通講習（感染症）】

- ・シンポジウム1「新型コロナウイルス感染症の過去・現在、そして未来」

日時：3月9日（木）16:10～18:20

会場：第1会場（マリオス 大ホール）

- ・特別講演5「新型コロナ これまでとこれから」

日時：3月11日（土）13:00～14:30

会場：第1会場（マリオス 大ホール）

- ・パネルディスカッション20「【人材育成】新型コロナウイルス感染症がもたらした人材育成への影響」

日時：3月11日（土）8:20～9:50

会場：第3会場（アイーナ 8階 804）

## 【共通講習（医療倫理）】

「医療倫理～基本的な考え方から災害支援の倫理的課題まで～」

日時：3月10日（金）9:30～10:30

会場：第2会場（マリオス 小ホール）

## 【共通講習（医療安全）】

「災害医学と医療安全」

日時：3月10日（金）18:00～19:00

会場：第1会場（マリオス 大ホール）

## 【選択受講項目（K単位講習）】

日にち	時間	会場	セッション名
3月9日 （木）	13:40～14:40	第1 会場	特別企画1 【東日本大震災】東日本大震災から12年、被災地からの発信～被災3県合同討論～
	13:40～15:10	第4 会場	パネルディスカッション3 【人材育成】持続可能な災害保健医療福祉支援：実践と人材育成のクリニカル・パール
	13:40～15:10	第5 会場	小児周産期委員会企画 【人材育成】災害医療における小児周産期医療従事者の人材育成

3月9日 （木）	14:50～16:00	第1 会場	特別企画2 VS南海トラフ地震 つなぐ議論のバトン！～1stメッセージ：南海トラフ地震に活かす過去の教訓～
	16:00～17:20	第3 会場	パネルディスカッション2 【東日本大震災】被災地からの発信～宮城県～大震災と近年の自然災害を災害科学からの視点から考える
3月10日 （金）	8:20～9:20	第5 会場	MCLS委員会企画 MCLS-CBRNEコースの改訂について、MCLSの新たなコースの紹介
	10:00～11:00	第5 会場	特別企画7 CBRNE対応の過去・現在、そして未来
	10:40～12:10	第2 会場	シンポジウム4 避難所の過去・現在、そして未来
	14:10～16:10	第1 会場	特別企画4 防災学術連携体「災害から国土と命を守る専門家をどう育てるか」
	14:10～15:40	第2 会場	パネルディスカッション9 【人材育成】災害保健医療の未来～医師～
	14:10～15:40	第4 会場	パネルディスカッション15 放射線災害対応の過去・現在、そして未来—誰が命を救うのか
	15:45～17:25	第4 会場	シンポジウム6 トリアージ
	15:50～17:20	第2 会場	パネルディスカッション10 連続する災害と保健所：健康危機管理体制とその支援
	16:20～17:40	第1 会場	パネルディスカッション8 【東日本大震災】被災地からの発信～福島県～
	17:30～19:00	第2 会場	シンポジウム5 【人材育成】災害保健医療人材育成の未来を考える
	17:30～19:00	第4 会場	パネルディスカッション16 各組織の災害支援体制について
3月11日 （土）	8:20～9:50	第5 会場	特別企画11 富士山噴火災害について考える
	8:20～9:50	第2 会場	シンポジウム7 災害時における医療コンテナの活用について
	8:20～9:50	第4 会場	学会主導研究委員会企画 災害医学研究をしたくなる！
	10:00～11:30	第5 会場	パネルディスカッション24 災害時の保健医療福祉調整本部に関する過去、現在と未来—健康危機管理センター設立に向けて
	12:50～14:20	第5 会場	パネルディスカッション25 冬期の自然災害と低体温症～日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・津波災害への備え～

## 【注意事項】

- ・学術集会時に開催されるK位認定講習については、**指導医講習会は上限1単位まで、必須受講項目（共通講習）は上限3単位まで、選択受講項目（K単位講習）は上限3単位まで**、となっております。
- 各セッションの聴講自体に制限はございませんが、**単位取得は最大7単位まで**となりますのでご注意ください。
- ・セッション開始10分前より受講票（半券付き）を会場前で配布いたします。受講票の半券に各自で**氏名・所属、登録番号**を記載して頂き、セッション終了後に半券のみご提出下さい。

※半券の提出がない場合、受講票が無効となる可能性がありますのでご注意ください。  
 ・専門医・指導医更新の詳細につきましては、一般社団法人社会医学系専門医協会ホームページをご確認下さい。  
 専門医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist02/>

指導医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist03/>  
 ※現在、社会医学系専門医協会認定の必須受講項目（共通講習）を日本専門医機構での共通講習単位としては利用することが出来ませんので、ご注意下さい。

## 第28回日本災害医学会総会・学術集会における「救急科領域講習」について

日本専門医機構 救急科専門医更新基準のうちの「救急科領域講習」の冒頭に「学会が主催する救急医学に関する講習会など」が挙げられており、本学会も主催学会として明記されております。そこで、本学術集会の下記講演につきまして、日本救急医学会教育・研修統括委員会による審査の結果、「専門医共通講習」として認定を受けましたので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

下記の講演につきまして、講演会場の受付にて、「e医学会カード」による受講確認を行います。

### 〈救急科領域講習〉

日時：2023年3月9日(木)17:30～18:30  
 会場：第3会場（アイーナ 8階 804）  
 演者：小林 道生 先生（石巻赤十字病院）  
 『津波肺について』

日時：2023年3月10日(金)18:20～19:20  
 会場：第3会場（アイーナ 8階 804）  
 演者：大場 次郎 先生（順天堂大学医学部附属練馬病院）  
 『クラッシュ症候群について～特別委員会の設置も含めて～』

### ■講演会場における「e医学会カード」ご提示のお願い

上記の講演会場におきまして、「e医学会カード」の読み取りによる受講確認を行います。受講を予定されている救急科専門医及び今年度受験中の先生方は講習の際に「e医学会カード」をご持参ください。（「e医学会カード」を忘れた場合も参加・参加登録は可能ですが、できるだけ「e医学会カード」のご提示にご協力いただけますようお願い申し上げます。）

## ● 第28回総会・学術集会企画運営委員・プログラム委員紹介

企画運営委員・プログラム委員として、下記の皆様にご尽力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。なお、査読委員のご紹介は抄録集に記載させていただきます。ご協力に感謝申し上げます。

第28回総会・学術集会会長 眞瀬智彦

### 企画運営委員（五十音順・敬称略）

江川 新一、小笠原 賢、奥山 学、加藤 渚、北川 喜己、久保 達彦、久保 芳宏、小賀坂 奈美、近藤 久禎、須原 誠、高階 謙一郎、高橋 昌、高橋 学、高橋 弘江、高村 ゆ希、忠地 一輝、豊國 義樹、中田 敬司、中田 正明、中村 光伸、中森 知毅、箱崎 貴大、長谷川 有史、萬年 琢也、森野 一真、山内 聡

### プログラム委員（五十音順・敬称略）

赤星 昂己、石井 美恵子、石原 諭、稲葉 基高、井上 潤一、植田 信策、鵜飼 卓、大友 康裕、大場 次郎、奥田 博子、奥村 順子、落合 秀信、恩部 陽弥、甲斐 聡一郎、甲斐 達朗、笠岡 俊志、河原 譲、川谷 陽子、清住 哲郎、久野 将宗、小井土 雄一、小早川 義貴、小林 映子、齋藤 大蔵、坂元 昇、佐々木 宏之、佐藤 めぐみ、高橋 礼子、富岡 譲二、富岡 正雄、中島 成隆、中村 通子、中山 伸一、成松 英智、二宮 宣文、濱田 真里、原田 奈穂子、張替 喜世一、布施 明、本間 正人、丸山 嘉一、岬 美穂、村上 典子、森村 尚登、山口 芳裕、山下 和範、山本 保博、若井 聡智、渡邊 暁洋

## ● 日本災害医学会最優秀論文賞・優秀論文賞・優秀査読者賞紹介

この度、学会賞として最優秀論文賞・優秀賞の新設を行いました。昨年度、学会誌に掲載されました投稿から厳正な審査を行いました結果、下記の皆様に決定となりました。3月10日(金)の会員総会時に表彰式を行います。また、学会誌発展のため、査読に大変ご貢献いただきました方より1名を表彰させていただき運びとなりました。ここにご紹介申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

日本災害医学会代表理事 大友 康裕  
編集委員会委員長 七戸 康夫

### 〈最優秀論文賞〉

- ・石原 由菜 元京都大学大学院工学研究科  
27巻3号 p195-200 原著  
「地震災害時の医療機能に対する影響評価の試み—大阪北部地震の影響分析から—」

### 〈優秀論文賞〉

- ・佐藤 美樹 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻  
27巻3号 p165-172 調査報告  
「大規模災害時を想定した分娩取扱施設における災害対策」
- ・福島 奏子 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系  
専攻看護科学コース高度実践助産学系  
27巻1号 p26-34 原著  
「ボランティアベースの災害支援者に向けた組織に求められる支援者支援と女性支援者への配慮」

### 〈優秀査読者賞〉

- ・清住 哲郎 防衛医科大学校医学教育部医学科

## 日本災害医学会の創設期 (記)

監事 甲斐 達朗

(医療法人白卯会 白井病院)

日本災害医学会は、創設から29年が経過し、会員数5000人を上回る大きな学術団体に成長しました。その間、災害医療に関する様々な提言、研究成果の発信、災害関連学会との連携、各種人材育成に関する研修ツールの開発、実践的な災害支援等を行ってきました。災害医療・災害医学という言葉も広く世間に認知されるようになり、それに伴い様々な分野からの若い会員も順調に増加していると同時に、学会創設の経緯を知るメンバーは少なくなってきました。そこで、今回のNews Letterでは、その創設に纏わるお話をしたいと思います。

本学会(研究会)設立前の状況は、1988年大阪で第16回日本救急医学会総会の併設で第一回アジア太平洋救急災害医学が開催、また、当時、国際緊急援助隊の若手が集まっていた国際災害研究会は、1990年フィリピン・バギオ地震や1991年ピナツボ火山噴火後の医療対応の調査を行っていました。日本救急医学会では災害対応調査委員会が、1994年中華航空機墜落炎上事故等の調査を行っていました。しかし、少数の救急医療関係者、国際保健関係者のみが、災害医療・災害医学という言葉を理解しているに過ぎませんでした。日本にも学際的な災害医学会の設立の機運が高まったのは、1993年に発生した北海道南西沖地震津波災害の医療対応合同調査に参加した札幌医科大学、日本医科大学、大阪府立千里救命救急センター等の医療関係者が集まった奥尻島での会合だったと記憶しています(写真1)。その後、早急に災害医学に関する学術団体の立ち上げの準備に取り掛かりましたが、1995年1月に発生した阪神淡路大震災の対応のため、準備が遅れました。

1995年5月18日に代表発起人として大塚敏文(日本救急医学会理事長)、太田宗夫(大阪府立救命センター)、金子正光(札幌医科大学)、山本保博(日本医科大学千葉北総病院)、その他の救急医学会の重鎮、30代後半から40代前半の若手医師41名の発起人で第一回準備委員会(発足会)が開催されました。以下が、その時の発足の趣意書です。「北海道南西沖地

震津波災害、中華航空機墜落炎上事故、阪神淡路大震災、東京地下鉄サリン事件と様々な災害が発生しております。これらを通じて、災害時の救急医療体制、病院の脆弱性、医療通信網、患者搬送システムなど多くの緊急に解決すべき問題が浮き彫りにされました。しかし、残念ながら現在の日本には、災害医学・災害医療に焦点を当てた研究会は存在いたしません。これらの問題を統括的に解決するため、医療従事者はもとより、消防関係者、防災行政関係者、防災研究者などの多領域の研究者が集結し、国内はもとより国際災害にも目を向けた、災害医学・災害医療に関する研究会の発足が急務との声が増幅したのは当然と申せます。この度、これを具現化するために災害医学研究者有志が鶴首協議した結果、日本集団災害医療研究会を発足させることに相成りました。」この準備会では、Disaster Medical Careは、医師だけの問題ではなく、



(写真1)



(写真2)



(写真3)

災害に関係するすべての人に研究会に参加してもらうため、Disaster Medicineではなく、Disaster Scienceとして考えるべきものではあるが、現段階ではDisaster Medicineとして我々が核となって将来的に発展させていくことや、今後起こりえる災害に対して活動性が高く、災害医学・災害医療をひとつの医学のジャンルとして、これに賭けていきたいという若い人が、研究会のリーダーシップをとって活動していくという方向性が確認されました。研究会の名称として、様々な候補に挙がりましたが、最も望ましいのは日本災害医学研究会という名称で一致していましたが、発足当時にすでに日本災害医学会（Japan Association for Accidental Surgery）という労災関連の学会が存在していたため、混乱をさけるため見送られました。集団災害という名称は、英語でMass Casualty Incidentという意味で、災害医学の中の一分野を示すと認識していましたが、日本集団災害医療研究会とし、英語表記は、Japanese Association for Disaster Medicineに決定されました。その後、研究会・学会の活躍が広く認められるようになり、2000年に日本災害医学会が日本職業・災害医学会へ名称変更したことに伴い、同年に

日本集団災害医学会に名称変更されていた本研究会は、2018年に名実ともに日本災害医学会に変更されました。

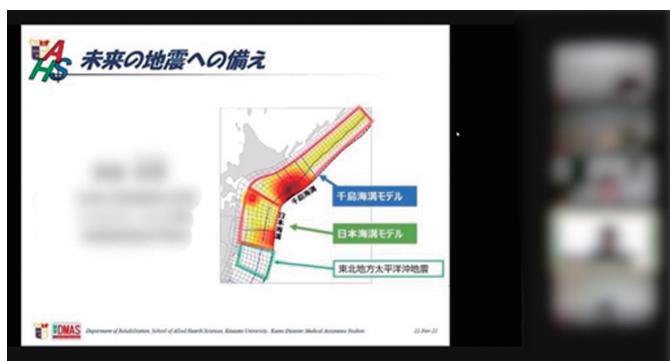
第一回学術集会は、発足当時の代表世話人であった千里救命救急センターの太田宗夫所長の下、1996年1月26日に大阪千里で開催されました。最初の学術集会であり演題はすべて演者指定を行い、招待講演は、世界災害救急医学会（WADEM）理事長であるUCLAの救急医学・公衆衛生学のSteven J Rottman教授に「Disaster medicine: What is our Mission?」（写真2）を、シンポジウムは2セッション、「病院の脆弱性」「災害医療体制—急性期および亜急性期」、パネルディスカッション「災害死—ケース・スタディ」を行いました。参加者は、約200名で、活発な討論が行われました。会員数は徐々に増加し同年末には約300名になりました。会員は医療関係者だけでなく、建築学・地震学等の研究者、災害対応を行う行政関係者や自衛隊員と様々な分野の会員が集まりました。

発足当時、若手と言われた会員も既に定年を迎える時期になっています。災害医学は、まだまだ若い学問です。学会設立当時同様に、若手が学会をリードして、更なる災害医学・当学会の発展に寄与していただきたいと思います。

## 学生部会活動報告

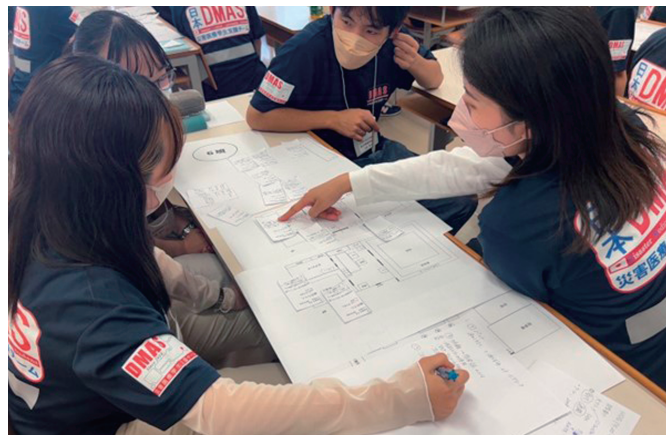
### 【関東支部活動報告】

日本災害医学会学生部会関東支部（以下、関東DMAS）では他支部と同様に、災害医療の勉強会を開催しています。他支部に無い特徴として、災害医療に携わるためには災害そのものの知識も必要であると考え、「自然災害」をテーマにした勉強会を定期的で開催しています。



2022年11月に『日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震』をテーマとした勉強会をZoomで開催しました。内容としては、内閣府防災がホームページで公表しているデータ、厚岸町が公表しているシミュレーション映像を用いながら、来たる災害に対して何を準備すれば良いのかを考えました。参加者からは、「地震が起こる仕組みや日本海溝・千島海溝地震について学ぶことができ良かった。」「未来を担う医学生となった今、自分に何ができるか、将来何ができるようになるべきかを考えさせられた。災害時に活動する医療チームをもっと調べたいと思った。」などの感想を頂きました。地震・津波・豪雨などの毎年多くの被害が出ている自然災害については、災害医療に携わる者として知っておくべき知識であると考えています。日本災害医学会総会・学術集会においても、自然災害をテーマにしたセッションが行われているように、学生の立場であっても常にアンテナを張っていたいと思います。

また、2022年12月にはDMAT隊員養成研修での運営支援活動に関東DMASより2名が参加させて頂きました。救護所での応急処置のシミュレーションでは、限られた資源の中で一人で



も多くの傷病者を救うために、インストラクターの方々が参加者の方々へ熱心に指導し、それに参加者の方々も応えようとひたむきに取り組む姿が印象的でした。関東DMASでのこれからの勉強会のあり方などを考える事ができ、大変勉強になりました。

改めまして、今回の活動にご協力いただいたDMAT事務局の先生方に御礼申し上げます。

### 【中国支部活動報告】

日本災害医学会学生会部会中国支部（以下、中国DMAS）では、2022年12月10、11日にピースウィンズ・ジャパン空飛ぶ捜索医療団ARROWS主催の多機関連携災害時医療救助訓練に傷病者役として7名が参加させていただきました。訓練では南海トラフ級巨大地震の発災4～5日目を想定しフィールドホスピタルを開設、捜索救助・患者の搬送から診療・処置まで一連の支援活動を総勢189名・51団体で連携して行いました。

中国DMASとしての主な活動内容は、事前に用意された傷病者役を様々な状況に合わせて演じることでした。今回は全員初めて参加させていただきましたが、ARROWSのコントローラーの方々に演技指導をしていただき、本番でも全力で演じることができました。傷病者役を実施することで、実際の災害現場で起こり得るトラブルへの対応を間近で見ることができ、貴重な経験ができました。その他にも訓練中にはフィールドホスピタルの見学や、救助犬の活動の紹介、災害時緊急支援プラットフォームPEADの皆様より炊き出しの提供などもしていただきました。

参加者からは、「看護師の方が歩くときや診察の時に肩を支えてくださり、意識がなくなって救急車来るまで経過観察をしている間、ずっと手を握ってさすってくださいました。不安な中、タッチングがいかに安心感を与えることができるか実感した。愛護的に関わってもらえているのが伝わってきた。」との声がありました。将来、災害現場で活動したいと考えている学生にとって、傷病者役という俯瞰的な立場から、医療者の関わり方や医療者間の連携の重要性を改めて感じることができ、非常に貴重な体験ができました。

今回の経験を通して得たことを今後の災害医療に関する活

動に繋げていきたいと考えています。最後に、今回の活動に多大なご協力をいただいた稲葉基高先生を始めARROWSの皆様、関係者の方々には心より感謝申し上げます。

### 【九州支部活動報告】

日本災害医学会学生会部会九州支部（以下、九州DMAS）では、2022年10月22日に福岡大学薬学部で第6回災害医療セミナーを行いました。セミナーでは、『令和2年九州豪雨から豪雨災害を学ぶ』というテーマで講師講義とグループワークを行いました。

講師講義では、福岡大学薬学部臨床薬学教室の江川孝教授をお招きして、令和2年九州豪雨の際のロジスティック活動について、CSCATTTに沿ってお話していただきました。CSCATTTについて知らない学生も多く、CSCATTTに沿って当時の状況をお話いただいたことで、実践的にCSCATTTを学ぶことができました。参加した学生からも、「普段聞くことができない薬学の視点から学ぶことができたのでよかった」という声が多く聞かれました。ご講義の最後にはウクライナの隣国であるモルドバに支援活動に行かれた際の貴重なお話もしていただきました。

ご講義の後のグループワークではHUG（避難所運営ゲーム）を行いました。実際に令和2年九州豪雨災害をモデルにして、その当時の状況を踏まえた避難所運営を5～6人のグループで考えました。新型コロナウイルス感染症の視点も踏まえ、避難者の部屋割り、食料や物資の受け入れ・配給、トイレやごみ、お風呂に関してなど、細かいところまで話し合いました。多職種で話し合うことで普段は気付かないことや新たな視点に気付くことができた学生が多く、有意義なグループワークを行うことができました。

コロナ禍において初めての対面でのセミナー開催となりましたが、セミナーを通して災害医療に関して学びを深めるだけでなく、メンバー同士の顔の見える関係を構築することができました。今後もこのような対面でのセミナーを行い、九州DMAS内での交流はもちろんのこと、災害医療を共に学ぶ学生を増やしていければと考えています。最後に、講義をしていただいた江川孝教授に心より感謝申し上げます。

## 日本災害医学会雑誌27巻3号

### ●総説

#### 災害医学研究の論文発表に係る倫理的配慮

七戸 秀夫

北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構臨床研究監視センター

日本災害医学会は日本医学会分科会ではあるが、会員の多くは非医師であり、それぞれがさまざまなバックグラウンドを持つ特殊な学会である。それがゆえに、他の医学会では確立している研究

倫理的なコンセンサスが、議論の的となってきた。本稿では、倫理的観点から災害医学研究の公表に関する注意点を挙げた。まず大前提として、本学会で報告される研究は科学に基づいたものであるべきだと指摘し、次に『ヘルシンキ宣言』において『個の倫理』>『集団の倫理』という医学研究の倫理原則が打ち出されていることを読み解いた。その上で、大規模な災害現場では、『集団の倫理』>『個の倫理』という、平常時と異なる倫理観が支配的になりやすい点を指摘し、研究の実施にはより慎重な倫理的

配慮が必要になることを議論した。最後に論文公表時の注意事項を取り上げたが、研究結果が公表されるその時まで、研究者は社会の信頼を失わないよう細心の注意を払うべきである。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3\\_207](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3_207)

## ● 原著論文

### 地震災害時の医療機能に対する影響評価の試み —大阪北部地震の影響分析から—

石原 由菜<sup>1)</sup>, 牧 紀男<sup>2)</sup>, 倉田 真宏<sup>2)</sup>, 趙 晃濟<sup>3)</sup>, 大鶴 繁<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 元京都大学大学院工学研究科

<sup>2)</sup> 京都大学防災研究所

<sup>3)</sup> 京都大学医学部附属病院

【目的】 災害拠点病院で近年事業継続計画（BCP）策定が義務化されるなど、災害時の医療機能継続については喫緊の課題であるが、病院施設が被災した際の医療機能への影響評価手法は確立していない。【方法】 本研究ではアンケート調査から大阪北部地震時の病院の建物・設備に対する被害と地震動の関係を明らかにするとともに、その結果をもとに京都市内の病院を対象に南海トラフ巨大地震等の発生時に病院施設が受ける被害の可能性を明らかにした。【結果】 その結果、発生確率が高いとされる南海トラフ地震では、京都のように震源から大きく離れた地域においても、大阪北部地震以上の揺れが想定され、建築構造的な被害が発生しなくても医療機能の継続という観点からは、大きな問題となるような影響が発生することが示唆された。【考察】 このように本研究は工学的手法を用いて医療機能継続の意思決定支援手法の開発を試みる独自性の高いものであり、今後の展開が期待できる。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3\\_195](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3_195)

## ● 調査報告

### 大規模災害時を想定した分娩取扱施設における災害対策

佐藤 美樹<sup>1)</sup>, 佐藤 健<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

<sup>2)</sup> 東北大学災害科学国際研究所

【目的】 宮城県内の分娩取扱施設における地震を中心とした災害対策の取組実態を明らかにし、現在において東日本大震災と同等の地震が発生した場合の分娩受入想定との関係を明らかにする。【方法】 宮城県からデータ提供を受け平時の状況を調査した。災害拠点病院を除く27の分娩取扱施設へアンケート調査を実施した。【結果】 特に仙南医療圏で、出生数の減少に比べ、分娩取扱数の落ち込みが目立ち、現在では2診療所のみが分娩可能であった。アンケート調査の有効回答は11施設であった。仙南医療圏の1診療所から回答が得られたが、旧耐震基準のもと設計された建物であった。【考察】 患者対応とライフライン途絶時の対応計画の策定が求められることが示唆された。ベッドや機器の移動防止が課題であった。【結論】 分娩取扱施設の大規模災害時における分娩受入継続に向け、工学分野と医学分野の学際研究や双方向のリスクコミュニケーションが求められる。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3\\_165](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3_165)

## ● 調査報告

### 建設型応急住宅の住環境整備に対するリハビリテーション専門職の介入効果の検証

佐藤 亮<sup>1,2)</sup>, 坪田 朋子<sup>3)</sup>, 田代 桂一<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup> 医療法人木星会山鹿温泉リハビリテーション病院

<sup>2)</sup> 熊本県災害リハビリテーション推進協議会

<sup>3)</sup> 合同会社リハビタ

【目的】 東日本大震災では被災地域高齢者の心身機能低下による要介護認定率の上昇が問題視されている。熊本県では二度の災害において、高齢者等が入居する建設型応急住宅に対して、リハビリテーション専門職を活用した初期改修による住環境整備を行った。今回はその有効性に関して検証する。【方法】 行政機関のデータベース、災害支援団体などの報告書・資料などを後方視的に解析した。また2020年7月豪雨において、初期改修を行った建設型応急住宅入居者および被災市町村仮設住宅担当職員へのアンケート調査を実施した。【結果】 熊本県で発生した災害による被災地域の要介護認定率の上昇はみられなかった。アンケート結果では、初期改修を行った入居者および市町村職員の満足度は概ね高かった。【結論】 建設型応急住宅において、リハビリテーション専門職が早期から初期改修に係ることが、被災地域の要介護認定率の上昇を抑える要因の一つとなることが示唆された。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3\\_188](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3_188)

## ● 事例報告

### 千葉県館山市における台風15号被災と在宅酸素療法継続の問題点について

瀬口 京介<sup>1)</sup>, 張本 英男<sup>1)</sup>, 青島 あずさ<sup>1)</sup>, 伊豆倉 遥<sup>2)</sup>, 藤江 聡<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 亀田総合病院卒後研修センター

<sup>2)</sup> 安房地域医療センター救急科

台風15号は千葉県を中心に甚大な被害を出し、日本政府はこの台風を激甚災害に指定した。千葉県館山市における台風15号の被害では多くの在宅酸素療法（HOT）使用患者で酸素吸入の継続が困難となった。今回の災害では長期間の停電による設置型酸素濃縮装置の使用不能に加え、通信局本局の停電による通信障害も伴ったことから、患者自身が新たな酸素ボンベの配送を依頼するという既存の対応を行うことができなかった。我々は在宅酸素供給業者と協力して災害拠点病院に可能な限りの酸素ボンベを集約し、市の防災放送を通して市民への情報共有を行い、酸素不足に効率的に対応した。在宅酸素の供給問題を在宅酸素業者に頼りすぎている点はこれまでの災害の経験から指摘されてきたが、HOT使用患者の災害時の対応について行政、医療サプライヤー、患者間での情報共有システムの構築を含めた災害マニュアルを作成する必要がある。

[https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3\\_161](https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.27.3_161)

## ● 事例報告

### 日本赤十字社の放射線災害への取り組みとこれからの課題

中村 誠昌<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup> 長浜赤十字病院医療社会事業部

<sup>2)</sup> 日赤原子力災害医療アドバイザー

2011年の東日本大震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故による救護活動の混乱は、日本赤十字社に大きな反省をもたらした。その反省から、放射線災害に対応するための資機材整備をはじめ、活動方針の策定やこれに基づく救護班への教育訓練、本部機能を支援するための日赤原子力災害医療アドバイザーの任命、放射線災害の被災地内に位置する日赤施設への支援体制整備、情報発信などの取り組みを行ってきた。現在全国で26の病院・道府県支部が原子力災害拠点病院あるいは原子力災害医療協力機関に指定登録され、国の放射線災害対応の一翼を担えるまでになったが、まだ課題は残されている。活動基準の妥当性についての検討や、日赤内での放射線災害に対する関心の低下への対応が求められているが、さらに放射線災害医療体制全体の中で

の日赤の役割について整理していく必要がある。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3\\_173](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3_173)

## ●事例報告

### COVID-19に対する北海道オホーツク医療圏内の連携と治療標準化の取り組み

斉藤 高彦<sup>1)</sup>, 荒川 穰二<sup>2)</sup>, 大谷 恵隆<sup>3)</sup>, 小笠 壽之<sup>4)</sup>, 水沼 正弘<sup>5)</sup>, 井上 聡巳<sup>6)</sup>, 菅原 修<sup>7)</sup>

<sup>1)</sup>北見赤十字病院循環器内科

<sup>2)</sup>北見赤十字病院麻酔科

<sup>3)</sup>北見赤十字病院内科

<sup>4)</sup>道立北見病院呼吸器内科

<sup>5)</sup>北見赤十字病院産婦人科

<sup>6)</sup>道立北見病院心臓血管外科

<sup>7)</sup>北見赤十字病院感染管理室

北見赤十字病院は北海道オホーツク医療圏の中核医療機関で、周囲の医療機関との連携により地域完結型の医療を担っている。北海道初のCOVID-19クラスターが北見市で発生後から、病院長を本部長としてCOVID-19感染対策本部体制をとり、COVID-19受け入れ病院、保健所、行政機関と情報の共有を図り対応していた。第4波の際、重症化のため他院から北見赤十字病院へ転院となる患者が相次ぎ、医療体制が逼迫した。COVID-19受け入れ病院における治療のばらつきが重症化の一要因と考え、Web会議で標準的な治療を保健所とともに受け入れ病院間で共有した。その後、北見赤十字病院へ転院搬送される患者は減少し医療提供体制は安定した。医療資源が限られた当医療圏で、平時からの連携をベースにWeb会議を行い、病院間の役割分担に加えてCOVID-19治療の情報と考え方を共有し、治療の標準化を図り、第4波の患者増加に対応した。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3\\_201](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3_201)

## ●体験レポート

### 新型コロナウイルス感染症診療に従事する医療従事者に発生した身体症状に対する鍼とマッサージの短期効果

岩元 英輔<sup>1)</sup>, 矢津田 善仁<sup>2)</sup>, 仲嶋 隆史<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>はりきゅうマッサージReLife

<sup>2)</sup>巫仁東洋鍼灸療院

<sup>3)</sup>東雲鍼灸治療院

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）クラスターが発生した病院の医療従事者に身体症状が持続し、災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会（Disaster Support Acupuncture Masseur Joint Committee：以下DSAM）に対して鍼やマッサージが要請された。7日間の支援で63名（延べ人数72名）が利用し、40歳代（30.2%）・看護職（87.3%）・女性（77.8%）、首肩部の主訴（54.7%）が最も多かった。このうち、COVID-19発生からDSAM介入までの11日間で健康被害が生じたのは34名（39.5%）で、施術前のNumeric Rating Scale（以下NRS）7点以上16名（47.1%）から施術後は0名に改善傾向を示し、早期介入による医療従事者の身体症状の緩和が図れた。

[https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3\\_181](https://doi.org/10.51028/jdisatmed.27.3_181)

## 【編集後記】

日本災害医学会誌第27巻第3号を出版いたしました。

これまで第3号は学術集会抄録号として出版されてきましたが、日本集団災害医学会誌の時代を含め初めての通常号としての第3号です。本年はこのほかに学術集会抄録号と新型コロナウイルス感染症特集号を合わせ過去最多年間5巻の出版となりました。日々の研究結果をご投稿いただいた会員みなさま、職務多忙の中、丹念にご査読いただいた査読委員みなさまに感謝申し上げます。

しかし残念ながら投稿原稿の増加に伴い、不正な研究デザイン、結果の解釈が恣意的であるなど、十分に推敲されていない研究結果も散見されております。本学会は災害医学に関わる多職種が集い、それぞれの立場から研究結果を発表し新たな知見を得るといった特徴があります。医療職以外の会員には初めて科学論文を執筆され本誌へ投稿される方もいらっしゃるかもしれません。

本号に総説「災害医学研究の論文発表に係る倫理的配慮」を掲載しております。災害医学は自然科学と社会科学の融合した領域であり、さらに介入研究が難しいという特徴があります。そういった点にも触れていただきましたので、是非ご一読ください。今後もこのような形で、研究デザインや論文執筆のポイントなどもテーマとして掲載してまいりますので、ご注目下さい。

引き続き会員の皆様方の研究成果のご投稿をお待ちしておりますので、宜しくお願い申し上げます。

編集委員長 七戸 康夫

投稿規定はこちら：<https://jadm.or.jp/contents/journal/>

投稿システムはこちら：<https://www.sasj2.net/jadm/welcome>

（学会雑誌に関するお問い合わせ先）

日本災害医学会誌 編集事務局

E-mail: [jadm-edit@bunken.co.jp](mailto:jadm-edit@bunken.co.jp)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6 パブリッシングセンター (株)国際文献社内

TEL: 03-6824-9363 / FAX: 03-5206-5332

## 編集後記

日本災害医学会Newsletter第4号は、第28回日本災害医学会総会・学術集会のご案内が中心となっております。学会が発足した28年前、何があったのか？「日本災害医学会の創設期」と題して甲斐達朗先生に学会発足の舞台裏を振り返っていただきました。甲斐先生の興味深いお話と共に、私の上司であった金子正光先生の若かりし頃の写真、非常に感慨深く拝見いたしました。日本の災害医学を更に充実させよ、と金子先生はおっしゃっているのかもしれませんが、私もあと数年のご奉公となりますが、頑張らねばなりませんね。

【七戸康夫】

2023年3月1日発行

発行所：一般社団法人 日本災害医学会

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

TEL: 03-6824-9396 FAX: 03-5227-8631

E-mail: [jadm-post@as.bunken.co.jp](mailto:jadm-post@as.bunken.co.jp)

WEB: <https://jadm.or.jp>